

教科(科目)	芸術（美術Ⅰ）	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	光村図書「美術1」				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

○グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）
～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①主体的に課題を見つける感覚を養い、自ら学び、解決策を創造する資質・能力と産業社会で求められる倫理観と規範意識を育成します。 ②生涯にわたって学び続ける意欲を養い、新たな産業に柔軟に対応する自己指導力を育成します。 ③国際的視野に立って考える姿勢を養い、地域の発展と豊かな暮らしに貢献するために必要な思考力、発想力を育成します。
○カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）
～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①共通教科の学びを強化して、基礎学力の定着を図ります。 ②工業高校で学ぶ基本的な知識や技術を習得し、課題研究や新しい IT 技術について、主体的な学び方と実践する場を設定します。 ③将来、国内・国際社会で活躍するために必要なコミュニケーション能力や英語力の向上を図り、多様な価値観を持つ仲間との協働的学習を行います。

2 学習目標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。 (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 (3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
--

3 指導の重点

・表現、鑑賞ともに基礎的・基本的技能の定着をはかる。 ・楽しく美術の活動に取り組み、美術を愛好する心情を育てる。 ・対象の造形的なよさや美しさを感じ取り、美意識を高める。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し価値意識をもって美術や美術文化に対する見方、感じ方を深めたりしている。	・主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。

5 評価方法

評価方法	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
	以上の観点を踏まえ、 ・作品の内容・提出状況 ・レポート などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・作品の内容・提出状況 ・レポート などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・作品の内容・提出状況 ・授業態度 ・出席状況 などから評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	題材名	学習活動(指導内容)	評価の 観点	時間	評価方法
4 5	○ デッサン	11 表現・鑑賞 絵画	鉛筆デッサン	観察力を養いデッサンの基礎を学び、描写の 技能を高める。	c a, b	11	授業の取組 作品
6 7	○ 色彩学	11 表現・鑑賞 デザイン	カラー ワーク	色の要素や1 2色相環、配色について理解す る。	c a, b	11	授業の取組 作品
8 9 10	○ 平面デザ イン	20 表現・鑑賞 デザイン	切り絵ステ ンドグラス	色彩、形態など造形要素の働きを理解し、そ れらを効果的に生かして美しく構成する力 をつける。	c a, b	20	授業の取組 作品
11	○ 鑑賞	6 鑑賞 絵画	教科書・生徒作 品	作者の心情や意図、表現の工夫などについて 理解を深める。	c b	6	授業の取組 レポート
12 1	○立体 (塑像)	11 表現・鑑賞 彫刻	石の模刻、 塑像	形態を立体として整理し、色彩を含め触覚を 本物に近づける。それにより自然の摂理を知 るとともに造形的な立体構成力を身につけ る。	c a, b	11	授業の取組 作品
2 3	○模写	11 表現・鑑賞 絵画	名画の模写	立体物の制作を通して、デザインする際のポ イントを理解し、機能性や素材を生かすデザ インについて学ぶ。	c a, b	11	授業の取組 作品

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・題材ごとに制作した作品を指定した期日までに提出することになります。
- ・題材によっては、作品の他に練習課題等の提出もあります。
- ・文化祭には制作した作品を展示します。
- ・夏季休業中の課題は別途指示します。(風景スケッチ等)

8 担当者からの一言

私たちは、美術と日常生活の中で無意識のうちに大きく関わっています。
作品制作を通して自ら考え、工夫する力を養いましょう。